

愛知大学 2018 年度 FD 活動総括及び 2019 年度 FD 活動

学部等名	FD 活動
法学部	<p>[2018 年度総括]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月13日教授会終了後、「卒業論文」というテーマで、教学に関する懇話会を実施した。そこでは、卒業論文を執筆する学生の中に剽窃する者がたまに見受けられるため、そのようなことをしないよう、教員としてどのように指導すべきか意見交換を行った。 ・2月15日教授会終了後、「演習科目の運用見直しについて」というテーマで、教学に関する懇話会を実施した。そこでは、演習の重要性について1年生時から繰り返し説明する必要性が話し合われ、意見の一致をみた。 <p>[2019 年度 FD 活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も昨年度と同様、教授会終了後に「教学に関する懇話会」を複数回実施する予定である。
経済学部	<p>[2018 年度総括]</p> <p>(1) 経済学部学外 FD 研修参加状況 名城大学第20回FDフォーラム「学生の主体的な学びと学修ポートフォリオ」、大学コンソーシアム京都「大学におけるダイバーシティ」(立命館大学)、大学研究フォーラム(狭路)など研修合計31件に参加した。</p> <p>(2) 経済学部内 FD 学習会 2019年1月24日(木)教授会終了後に「入門演習(初年次学習指導)の学習指導におけるテキストや指導内容等について」を杉浦 裕晃先生に講演していただいた。経済学部のカリキュラムの効果測定のあり方など、構成員間での情報共有を促す機会となった。</p> <p>[2019 年度 FD 活動] 2018 年度 FD 活動と同様に、学部内 FD 学習会を開催し、積極的に外部 FD 研修に参加する。昨年度から学部 FD 活動で議論している、カリキュラムの課題などについて、構成員の意識をさらに高め、踏み込んだ議論を行いたい。</p>
経営学部	<p>[2018 年度総括]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生相互の交流や経営学部ガイドブックを用いたきめ細かな履修指導を中心とした新入生歓迎会(4月3日開催)は、経営学科・会計ファイナンス学科から募集した学生スタッフ(学生FD委員)の協力もあり、大変盛況であった。学生の視点からより満足度を高めていくことの必要性ときめ細かな履修指導を継続していくことが確認された。 ・第4回教授会(5月31日開催)において、2017年度学修成果アンケートの集計結果をもとに、両学科の現況を確認し、教学改善に向けての意見交換を行った。 ・第11回教授会(10月18日開催)終了後において、経営学部教授会・経営学会主催の研究報告会を兼ねたFD活動学習会を行った。本学部の前原先生より「事例シナリオ型 PBL の理論と実践」というタイトルのもと、高等教育における PBL に関する理論と実践について報告を受けた。また、報告後は、経営学部の構成員間でディスカッションを行った。今後も学生の主体的な学びのあり方について構成員間で情報交換を行っていくことを確認した。 <p>[2019 年度 FD 活動]</p> <p>(1) 新入生歓迎会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営学部ガイドブックを用いたきめ細かな履修指導 ・学生の視点からの満足度を高めるための企画を学生FD委員の参加により実施 <p>(2) よりよい教育の実現を目指した議論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学修成果アンケート集計結果をもとに、現況を確認、教育上の課題を検討 ・1年次の「入門ゼミ」における「学生の学び」に関する情報の交換

<p>現代中国学部</p>	<p>[2018 年度総括]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生(ゼミ生)及び新入生のアンケート 卒業生(ゼミ生)及び新入生のアンケートは継続して行ったが、2018 年度カリキュラムの細かい運営レベルでの改善に向けて教学検討委員会で検討討議を行うことは達成できなかった。 ・授業相互見学について 原則として一人一回は年度内に他の教員の授業見学を行うこととしたが、あまり実施されなかった。 ・現代中国学会との連携 現中学会講演会等において、現代中国に関わる広い知識を獲得・共有し、授業改善に役立てた。とりわけ劉乃華氏のワークショップは中国語教育に資するものとなった。 ・入門演習ガイドブックの改訂 入門演習担当者間で検討を行ったが、改訂には至らなかった。一方、この検討過程において、基礎演習の教材検討にも着手することができたことは成果として挙げられる。 ・グローバル人材育成推進後継事業との連携 日本社会調査・現地調査、現地インターンシップ等各公開報告会を実施し、学生の主体的な学びを促した。また、さくら 21 活動とさくら 21 科目をひもづける試みを始めた。 ・動画による授業公開の導入 学長裁量費を用い、教員の授業公開を行うための動画を作成し、年度内に学部のホームページ上に掲載・公開した。 <p>[2019 年度 FD 活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生(ゼミ生)及び新入生のアンケート 卒業生(ゼミ生)及び新入生のアンケートを継続して行い、2018 年度カリキュラムの細かい運営レベルでの改善に向けて教学検討委員会で検討討議を行う。 ・授業改善ピア活動 原則として年一回以上の授業見学もしくは自主勉強会に参加し、自らの授業改善につなげるとともに、その成果を教授会で報告し、教育実践に関する相互の関心を深める。 ・現代中国学会との連携 現代中国学会講演会・シンポジウムなどと密接な連携をとり、現代中国に関わる広い知識の獲得・共有をとおして授業改善につなげる。 ・演習系共通教材の検討・改訂 入門演習や基礎演習など共通教材を用いる科目において、担当者間で意見交換を行い、教材の改善につなげる。 ・動画による授業公開の導入 学長裁量費を用い、作成した授業動画を活用し、授業の振り返り、改善に役立てる。
<p>国際コミュニケーション学部</p>	<p>[2018 年度総括]</p> <p><英語学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・語学の教員同士での授業参観を実施した。更に学外の専門家にも見学いただき、講評をいただいた。 ・入学時に新入生に英語学習歴についてのアンケートを採り、そのアンケートと入学時に受ける TOEIC の点数を考慮して、英会話のクラス編成を行った。 ・注意を要する学生について、学科会議でその学生の情報を共有し、授業運営がよりうまくいくようにお互いに助言をした。 ・新入生に配布する冊子を改訂した。 <p><国際教養学科></p> <p>学科会議において学科教育に関する意見交換・情報共有(授業運営上の問題や学生の指導のあり方など)を頻繁に行い、必要に応じて対処方法について検討した。これに加え学習状況についてのアンケートを全学年対象に実施し、その結果を学科全体で共有し、意見交換を行った。こうした取り組みは、課題・問題の早期認識・早期発見を促すものであり、学科として有意義な活動であった。</p>

	<p>[2019 年度 FD 活動]</p> <p><英語学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・語学の教員同士での授業参観を実施する。更に学外の専門家にも見学いただき、講評をいただく。 ・入試課の職員から、現在の入試状況や高校生の動向について説明してもらう。 ・大学のカウンセラーから、学生の生活状況についての話を聞き、日頃の指導に役立てる。 ・入学時に新生に留学経験や英語資格取得状況についてのアンケートを採り、そのアンケートに基づき、入学時に受ける TOEIC の点数を考慮して、英会話のクラス編成を行う。 ・注意を要する学生について、学科会議でその学生の情報を共有し、授業運営がよりうまくいくようお互いに助言をする。 ・ネイティブ特任教員とネイティブ嘱託教員の間で授業内容に関して週 1 回ミーティングを行う。 ・英作文のコーディネーターを各学年に配置し、積上げ式の学習を可能にする。 <p><国際教養学科></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上記のような学科会議における取り組みを継続し、逐次課題・問題に対処する。 2. 昨年度に引き続き在学生対象の学習状況アンケートを実施し、逐次課題・問題に対処する。 3. 1、2 を受けて、特定のテーマを設定した FD 活動学習会・懇談会を実施する。特に導入教育についての意見交換会の場を設ける予定である。
<p>文学部</p>	<p>[2018 年度総括]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ラジオ番組「こちら愛大 ～アイダイ・ど・文学部の時間～」 (FM 豊橋)において文学部の教育・研究内容の提示を行い、教育のあり方の検討と教員の自己研修を実施 放送は 2018 年 11 月から 2019 年 2 月までの全 16 回行われ、放送十周年となった。放送後、愛大公式ホームページに音声ファイルをアップしている。入学前に FM 豊橋の番組を視聴して文学部の教員や教学に関心を持ったり深めたりする学生も現れており、それは長年の多様な番組を蓄積させ Web 上で公開している効果に違いない。なお、2018 年度は留学生の番組も設けた。 2. 人文社会学と現代に関する研究会の実施 第 18・19 回「人文社会学と現代に関する研究会」を以下のとおり実施した。(敬称略) 日 時：2018 年 7 月 12 日 (木) 第 7 回文学部教授会終了後 報 告：加島大輔「明治期小学校教員養成と地方性－制度と移動の側面から」 コメンテーター：加藤潤 司会：臼田真佐子 3. 文学部内勉強会 教員の意識向上をはかるため、勉強会等を随時企画することは念頭に置いていたが、特になかった。教員向け図書館ツアー(Japan Knowledge の使い方の紹介)は、文学部教員向けに単独で開催する予定であったが、諸般の事情により、豊橋校舎全体の教職員・学生向けに実施された。 4. 文学部内学習・教育支援委員会の活動 FD 活動の 2017 年度総括と 2018 年度計画について、文学部内学習・教育支援委員の意見を集約したうえで、教授会で議論を行った。 5. 専攻で試みた FD 活動 図書館のラーニングcommonsを用いた授業にも成果があった。社会学専攻で、ラーニングcommonsでアクティブ・ラーニング型の演習(ウィキペディアについてのワークショップやビブリオバトル等)を行っている授業があり、日文専攻で文献検索後、即座に図書館文庫の貴重本や書庫の蔵書を閲覧して学習効果を高めている授業もある。 <p>[2019 年度 FD 活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ラジオ番組「こちら愛大 ～アイダイ・ど・文学部の時間～」 (FM 豊橋)において文学

	<p>部の教育・研究内容の提示を行い、教育のあり方の検討と教員の自己研修を実施</p> <p>2. 人文社会学と現代に関する研究会の実施（2019年度は20回開催記念の会として実施予定）</p> <p>3. その他、FD活動の上で必要なことが生じれば、随時対応</p>
地域政策学部	<p>[2018年度総括]</p> <p>2018年度の地域政策学部の学部FD活動は、3本柱の年度目標を掲げ、概ね遂行することができた。これらの年度目標は、本学部の恒常的に行うFD活動内容であることから、2019年度も引き続き、同じ年度目標を掲げ、教員の資質向上を目指したい。</p> <p>[2019年度FD活動]</p> <p><年度目標></p> <p>(1) 演習科目群における授業の改善を図る。</p> <p>(2) 学部開設8年の経験をふまえ、学部の特色ある教育の成果を振り返り課題を探る。</p> <p>(3) 教学や学生生活を支える学内のさまざまな取り組みを知り、連携する。</p> <p><活動方法></p> <p>(1) について</p> <p>担当教員の交流を促進し、教育の質の向上に取り組む。従来の学習法担当者会議、研究法担当者会議に加え、ゼミナールの担当者の経験交流の場を設ける。とくに研究法やゼミナールでのアクティブラーニング、PBLの経験交流を図る。</p> <p>(2) について</p> <p>①大学間連携共通教育推進事業を進める中で入学前教育、初年次教育の現状や在り方を話し合う。</p> <p>②学生地域貢献事業への支援等を通して見出された地域貢献活動の教育的意義や課題を話し合う。</p> <p>③アクティブラーニングやPBLの取り組み成果や課題を話し合う。</p> <p>④キャリア形成支援に取り組む中で、地域に求められる人材養成のあり方を話し合う。</p> <p>(3) について</p> <p>教職課程センター、学習教育支援センター、図書館、学生相談室、キャリア支援課、学生課、保健室などの担当者各位を教授会に招いて意見交換する。</p>
短期大学部	<p>[2018年度総括]</p> <p>1. これまで実施してきた全学的な授業評価アンケートに加えて、「基礎演習」、「発想・議論演習」、「卒業研究Ⅰ」、「卒業研究Ⅱ」において全学統一フォーマットの授業評価アンケートを実施した。</p> <p>2. 初年次教育の支援及び短大での「学び」を充実させる目的から、必修科目である「基礎演習」において、図書館や大学記念館（東亜同文書院大学記念センター）、語学教育研究室（ランゲージカフェ）等のガイダンスを積極的に活用した。</p> <p>3. 教育環境や学生生活の改善・向上を図るため、教授会の機会を活用して、短期大学部生の悩み・相談の現状やその対応について、豊橋学生相談室、ならびに短大生の就職実績と指導状況について、キャリア支援課と意見・情報交換を行った。</p> <p>[2019年度FD活動]</p> <p>昨年度と同様、全学的な授業評価アンケートや初年次教育支援の取り組みを継続実施するとともに、教授会開催に合わせ、学生生活の現状を把握するために、学生相談室やキャリア支援課などとの情報交換会を複数回実施する。</p>